

◆研修会特集◆

電子ジャーナル利用促進報告

緒方 宏子

Key Words : ポータルサイト、利用統計、PubMed、医中誌 Web、利用案内

I. はじめに

当院では2007年より日赤コンソーシアムに参加し、電子ジャーナルの本格導入を開始した。導入から5年経ち、現在は洋雑誌を中心に購読希望雑誌の約半数を電子ジャーナルで閲覧することができる。

冊子体から電子ジャーナル中心の閲覧環境へと変化する中で、どのような利用促進活動を行えばいいのか大きな課題であった。試行錯誤している状況ではあるが、当院の電子ジャーナル利用状況と、利用促進事例を紹介する。

II. 電子ジャーナル利用状況

当院では2012年現在、洋雑誌50誌、和雑誌80誌を定期購読している。前述の通り、日赤コンソーシアムに参加しパッケージで購入しているため、実際には洋雑誌1,902誌、和雑誌827誌が閲覧できる。図書室の予算のうち38%を電子ジャーナルに、12%を冊子体の購入にあてている。

OGATA Hiroko

福岡赤十字病院 図書室

library@fukuoka-med.jrc.or.jp

(受理日: 2012. 8. 31)

しかし、部署によっては図書室が遠い、電子ジャーナルの閲覧環境が整っていないといった理由で電子ジャーナルと冊子体を併せて購読している場合もある。予算や書架のスペースにも限りがあるため、定期購読調査の際には冊子体も必要かどうか毎年見直しを行っている。

昨年は試験的に利用統計を添えて定期購読雑誌調査を実施し、その結果2誌が購読中止となった。利用統計は図書日よりで広報しているが、どのくらい利用しているかという意識付けになったのではないかと思う。

当院の洋雑誌電子ジャーナル利用統計をしてみると、2007年の導入以来、利用可能なデータベースも年々増加しており、それに比例して利用数は増加傾向にある(図1)。和雑誌電子ジャーナル利用数(図2)を見てみると、2011年のアクセス数は月平均439件で、年間5,000件を超える利用がある。当院の和雑誌電子ジャーナルはメディカルオンラインのみだが、洋雑誌電子ジャーナルと比較すると倍近く利用されていることがわかる。

実際にどのような雑誌が読まれているのか閲覧数上位10誌を見てみると(表1)、診療部・看護部・技術部を問わず幅広く利用されている。

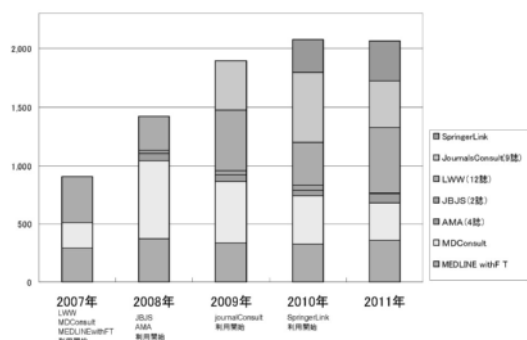


図1 電子ジャーナル（洋雑誌）利用状況

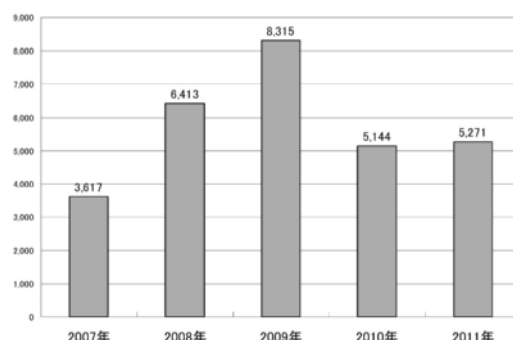


図2 電子ジャーナル（和雑誌）利用状況

表1 メディカルオンライン
閲覧数上位10誌（2011年）

1	治療	117
2	総合臨牀	114
3	理学療法	113
4	骨折	107
5	Diabetes Frontier	92
6	ナーシングビジネス	86
7	ネオネイタルケア	84
8	医学のあゆみ	82
9	臨牀と研究	80
10	Modern Physician	79
	診断と治療	79

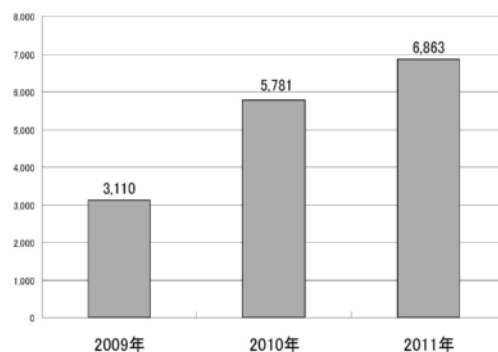


図3 ポータルサイトアクセス数

（図3）、開設以来利用者は増加しており、文献入手の拠点として活用されていることがわかる。

III. 利用促進事例

1. ポータルサイトの活用

2007年4月より、日本赤十字社本社から提供された図書室ポータルサイトを活用している。このページから契約雑誌・データベースを一覧することができるため、利用者から雑誌のアクセス方法や文献検索の問い合わせの際にスムーズな利用案内が可能となった。また、お知らせ欄は各施設で自由に編集できるため、トライアル情報などを掲載することができる。

ポータルサイトアクセス数を見てみると

2. リンク設定

多数の電子ジャーナルにアクセスできるようになったものの、検索結果からスムーズに論文までたどり着く方法が必要である。これを解決するために、PubMedのLinkOut機能を利用して、検索結果から所蔵の確認と電子ジャーナルの閲覧が可能になった。医中誌Webにも同様に所蔵アイコンとフルテキストリンクを表示させている。

PubMedリンクアウトから文献のフルテキストを閲覧した件数を見てみると、電子

ジャーナル利用数の約半数がリンクアウト経由となっており、利用が定着していることが分かった。

3. 利用案内パンフレットの作成

当院では利用案内パンフレットを図4のような内容で作成し、広報ツールとして活用している。図書室に常備し、毎年4月には新入職者向けに200部配布している。

しかし、充実したパンフレットは便利ではあるが、情報を盛り込みすぎでは多忙な利用者にとって利用しにくい事もある。そこで「どうやったら電子ジャーナルを読めるのか」、「検索結果に表示されるアイコンの種類を知りたい」などのよくある質問に対して、該当する部分の資料を渡して説明できるよう、各項目が1枚に収まる形に編集している。これによって利用者に素早く回答することができ、後で確認できる資料も渡すこともできる。また、すべて綴じればガイダンスで利用できる資料として使うこともできる。

4. 利用指導の実施

2012年5月に敷地内に完成した新病院に移転するまで、図書室は管理部門から離れた場所にあり、職員の認知度には大きな差があった。利用指導も、研究を行なう看護師向けに文献検索指導を年に1度行なうだけであった。そのため、電子ジャーナルの活用を含めた利用方法を周知する機会を作る必要性を感じていた。

そういった背景もあり、2011年より少人数制の図書室利用ガイダンスを開始した。開催時期は新入職者のオリエンテーションが多数開催される4・5月を避け、新年度の慌しさが落ち着く6月に設定した。1ヶ月間毎日2



1. 図書室利用案内（開室時間、貸出について）
2. ポータルサイト・契約データベースについて
3. 外部リンクについて
4. 文献複写申込方法について
5. 電子ジャーナル閲覧方法について
6. 定期購読雑誌一覧

図4 利用案内パンフレット

回の枠を用意し、最大5人程度の予約制で行なっている。少人数でガイダンスを行なう利点として質問や意見が出やすく、参加者の理解度に合わせた内容で進めることが可能であった。

ガイダンスの内容として、図書室の利用方法から文献検索データベースの利用、電子ジャーナルのアクセス方法等を1時間の枠で説明している。リハビリ科、薬剤部、検査部など、今まで利用指導を行なう機会のなかった部署から22名の参加があった。

ガイダンス後のアンケートから分かったことだが、22名の参加者のうち9名は電子ジャーナルを利用したことがなく、ガイダンス後に「業務に役立つ雑誌が電子ジャーナルになっていることを知らなかった」、「今までどのように情報を探していたか分からなかつ

た」という意見が聞かれ広報不足を痛感させられた。これをきっかけに電子ジャーナルを利用する機会が増えた部署もあり、今後も利用者のニーズに沿った利用指導を継続して行なっていく予定である。

IV. まとめ

2012年5月に新病院に引越した際、すぐに荷解きをすることができず冊子体が利用できない状況が3週間続いた。しかし、ネット環境は引越し直後から利用可能となったため、電子ジャーナルでの文献提供を行なうことができた。このときほど電子ジャーナルが導入されていて良かったと思ったことはなかった。

電子ジャーナルは図書室を運営していく上で必要不可欠になっていると実感している。今後もその機能を十分活かし、利用者へ提供できる図書室を目指していきたい。

参考文献

- 1) 森谷優理子：電子ジャーナル利用状況
電子ジャーナルの利用促進と利用状況。日赤図書館雑誌 2009；16(1)：35-38。
- 2) 平吹佳世子：慶應義塾大学における電子ジャーナル利用状況統計分析。医学図書館 2002；49(2)：160-166。
- 3) 塚越貴子：前橋赤十字病院図書室における新人看護師オリエンテーション。看護と情報 2008；15(2)：60-64。